令和6年度小学校教科教育推進研修（国語科）研修成果物（単元について）

		Aグループ	
指導者	呉市立仁方小学校	福馬	菜生
	竹原市立竹原西小学校	阿部	なつめ
	三原市立南小学校	尾崎	詩織
	尾道市立三成小学校	森野	絢美
	庄原市立総領小学校	石田	かなこ

1 教材名 「いろいろなふね」（東京書籍「新編 あたらしいこくご 一下」）

2 学 年 第1学年

3 単元で扱う教材について

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）国語第1学年及び第2学年の〔思考力、判断力、表現力等〕C（1）の指導事項「ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。」及び「オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。」を受けて設定している。

「文章の中の重要な語や文を考えて選び出す」力を育成するには、「書き手が伝えたいことは何かを考える」、「自分が知るべきことについて詳しく知る」といったことを意識しながら、書き手が述べている事柄を正確に捉えるために、事柄の順序に関わって文章の中で重要になる語や文、読み手として必要な情報を適切に見付ける上で重要になる語や文を選び出させることが必要となる。

「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ」力を育成するには、文章の内容を、自分が既にもっている知識や実際の経験と結び付けて解釈し、想像を広げたり理解を深めたりする中で、文章の内容に対して児童一人一人に思いをもたせることが必要となる。

本単元で扱う「いろいろなふね」は、事例として取り上げられている4種類の船の「やく目」と、それに合うような「つくり」が同じ段落構成で説明されており、「やく目」と「つくり」の関係を捉えやすい。そのため、「やく目」と「つくり」の関係を理解した上で、「やく目」とそれに合う「つくり」を見付けるといふ、文章の中の重要な語や文を考えて選び出す力を身に付けさせることに適した教材である。また、乗り物という身近な題材が取り上げられていることで、児童が題材についてイメージを持ちやすく、児童が興味・関心をもって学習に臨むことができる。また、児童の乗り物についての生活経験と学習文章の内容を関係付けたり比較したりすることで、既有的知識や経験と結び付けて解釈し、理解を深めて感想をもちやすい教材である。

4 単元の目標

- 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。

〔知識及び技能〕（2）ア

- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C（1）ウ

- 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C（1）オ

- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

〔学びに向かう力、人間性等〕

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 (2) ア)	① 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 (C (1) ウ) ② 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 (C (1) オ)	① 進んで、文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、今までの学習を生かして、「のりものカード」にまとめようとしている。

<評価の具体及び手立て>

	評価規準【「おおむね満足できる」状況 (B)】	「努力を要する」状況 (C) と判断した児童への指導の手立て
知識・技能①	<p>事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 (2) ア)</p> <p>・ワークシート、ノート</p> <p>○ きゃくせんは、たくさんの人をはこぶやく目があります。だから、きゃくしつやしょくどうがあるので、人はきゃくしつで休んだり、しょくどうでしょくじをしたりできます。</p> <p>○ どのふねにも、やく目とつくりがある。だから、やく目のあとにつくりがかいてある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「やく目」と「つくり」を色分けしながら確かめることで、教材文の船は、同じ順序、同じ段落構成で説明されていることを捉えさせる。 「だから」「そのために」といった接続語を用いて情報と情報との関係を捉えさせる。
思考・判断・表現①	<p>「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 (C (1) ウ)</p> <p>・ワークシート</p> <p>○えらんだ車：ろせんバス ○やくめ：大ぜいのじょうきゃくをのせて、はこぶための車。 ○つくり：つりかわや手すりがついている。 ↓ 立ってのることもできる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能①と関連させながら、「やく目」に対応する「つくり」の語や文を見付けさせる。 既習内容や挿絵、「なにをするための乗り物でしょう。」などの問いの文を掲示し、それらを基に考えられるようにする。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">思考・判断・表現②</p>	<p>「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 (C (1) オ)</p>	<p>・ ワークシート</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>① 文章の内容</p> <p>きゃくせんは、たくさんの人をはこぶやく目があります。だから、きゃくしつやしょくどうがあるので、人はきゃくしつで休んだり、しょくどうでしょくじをしたりできます。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>② 自分の体験・既有的知識</p> <p>ほいくしょのえんそくでバスにのったとき、みんなでのっていきました。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>③ ①と②を合わせて解釈し、理解を深める</p> <p>バスはたくさんの人がのれるところがきゃくせんとなっています。でも、きゃくせんにはきゃくしつやしょくどうがあるから、おきゃくさんはいどうもたのしくなるとおもいます。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>④ 文章の内容に対する自分の思い</p> <p>きゃくせんは、ふねの中にホテルがあるみたいで、すごいとおもいました。わたしものってみたいです。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ まとめる視点を示した「のりものカード」を用いることで、選んだ乗り物と既有的知識や経験を結び付けながら解釈し、理解を深められるようにする。 ・ ワークシート例の①～④は順序性を表しているものではないことを伝え、書きやすい部分から書いてよいことを伝える。 ・ うまく①～④に分けることができない児童は、個別に話を聞いたり補足を引き出したりしながら①～④に分けられるよう支援する。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>進んで、文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、これまでの学習を生かして、「のりものカード」にまとめようとしている。</p>	<p>・ 行動観察</p> <p>「のりものカード」に、</p> <p>② ①のやく目・つくりと結び付く既有的知識や経験</p> <p>③ ①と②を結び付けて深めた理解</p> <p>④ 感想</p> <p>が整合するように、読み返したり修正を加えたりしながら粘り強くカードを作成しようとしている姿を評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ できている部分を教師が認めながら、教材文や図書を読み返したり、これまでの学習を想起させたり、既有的知識や経験を尋ねたりしながら、粘り強く取り組めるよう支援する。

バス

乗り物の絵

知識・技能①

接続語を用いながら文を作り、「やく目」「つくり」の関係を理解しているかの確認

(単元では教材文を用いたカード作成の際に記録に残す評価を行う)

なまえ)

①やく目・つくり

バスは、大ぜいのおきやくさんを

のせて、はこぶやく目があります。

そのために、つりかわやてすりがつい

ています。

だから、おきやくさんは、たっついてても

あんぜんにのることができます。

② 知っていること・のったこと・見たこと・きいたこと

わたしののっている車は、五人しかのれません。たっつてのることもできません。

③ じぶんのしらべたのりものと②をくらべて

わたしののっている車とくらべて、バスはおきやくさんがおおすぎて立っつてのることがあつても、あんぜんにのれるようにつりかわやてすりがついていることがわかりました。

④ おもつたこと・かんそう

わたしは、バスにのる人ぜんいんがあんぜんにのれるようにくふうさすごいなおもいました。こんどバスにのつたときに、つりかわやてすにあるか見てみようとおもいます。

「のりものカード」の例

主体的に学習に取り組む態度

のりものカード①～④が整合するように読み返したり修正を加えたりしようとしながら粘り強く取り組んでいるかの確認

思考・判断・表現②

② ①のやく目・つくりと結び付く既有的知識や経験、③ ①と②を結び付けて深めた理解、④感想を表現しているかの確認 (書き表すことができない児童には口頭で表現させるなどし、教師が書くための支援を行う) (単元では教材文を用いたカード作成の際に記録に残す評価を行う)

思考・判断・表現①

「やく目」「つくり」の関係を理解した上で、「のりものカード」を作成する上で重要な語や文である、選んだ乗り物の「やく目」「つくり」を選び出しているかの確認